社会委員会通信

№ 38　　2010.3.7

発行：横浜港南台教会 社会委員会
〒234-0054
横浜市港南区港南台 7-8-29
Tel：045-833-5323　Fax：045-833-6616

２月７日（日）の礼拝後、座間キャンプの基地撤廃のため、草の根の市民運動として粘り強く「バスストップから基地ストップの会」のメンバーとして活躍されている原順子姉（高座渋谷教会員、教区基地・自衛隊問題小委員会委員）と伊東永子姉（翠ヶ丘教会員、教区基地・自衛隊問題小委員会委員長）をお招きして、お話を伺うことができました。

私たちが今まで漠然としか捉えていなかった米軍基地について、現状と存在意義を明確に教えていただくことができました。今や重大な政治課題となっている沖縄の基地移設問題も、もとを正せば、本土での砂川闘争などの米軍基地反対運動に危機感を抱いた米軍が、その主な機能を沖縄と韓国に大幅に移転させたのがきっかけだったのです。

私たちは戦後 65 年間平和を維持してきたと自負していますが､米軍が日本を事実上の前線基地としてベトナム戦争やイラク戦争を戦ってきたことを忘れてはなりません。私たちは自覚せずにベトナムやイラクの民衆の上に戦火を浴びせていると言えるのです。

基本的に日本のどこにも米軍の基地は要らないのです｡日米安保条約を不動の前提とする限り、基地を巡る問題は解決不能なのです。米軍の核の傘を借りて、それを抑止力とする考えは、もうそろそろ「チェンジ」すべきではないでしょうか。米軍と日本の自衛隊の連携は、戦争への危険な道筋にあると言えるでしょう。自衛隊が、二千年前のローマ帝国がローマの市民からなるローマ軍の正規兵の兵力不足を補うために用いた補助兵の存在と重なっているように私には思われてなりません。

世界は冷戦後の米国の一極支配から急激に変化しつつあります。私たちには圧倒的なマスコミの力の作り出す流れに抗して、正しく判断し、行動することが求められています。

参加者は 23 名（女性 16 名、男性７名）でした。　（社会委員長：K．T）

基地（キャンプ座間）のある町に暮らして

高座渋谷教会員：原　順子
翠ヶ丘教会員：伊東永子

１.キャンプ座間の概要

みなさん、こんにちは。毎週キャンプ座間前で座り込みをしているバスストップから基地ストップの原順子と伊東永子です。会の名前の由来は後で話します。

はじめに、キャンプ座間の概要とこの数年間の経緯を話したいと思います。

私たちの教会がある相模原、大和は湘北地区になりますが、厚木基地をはじめ、キャンプ座間、相模総合補給廠、相模原住宅地区と米軍施設がとても多いところです。

港南台は騒音で悩まされることはありませんか？ 高座渋谷教会は厚木基地から近いですし、私たちの住んでいるところは騒音が

大きな問題です。この騒音は横須賀を母港とする空母の艦載機が厚木基地を使用・訓練しているためです。

キャンプ座間は陸軍の兵站司令部が置かれていましたが、2004年３月に「アメリカの司令部が来る」と新聞報道されるまでは、厚木基地のように騒音を出すわけではないので、あまり問題にされることはありませんでした。それが「アメリカの司令部が移駐」と報道以来、大問題の基地に一変しました。

キャンプ座間がどこらへんにあるか、分かりますか？ キャンプ座間はここから20キロほど内陸部に入った、相模川中流域に沿った座間市と相模原市にまたがって、東京ドーム50個分（234万6千㎡）の大きさがある、米陸軍の基地です。リトルペンタゴンと呼ばれている司令部など主要施設は座間市側にあり、ゴルフ場等を含め、基地面積の約７割は相模原市側にあります。陸上自衛隊も共同使用しています。

キャンプ座間の前身は帝国陸軍士官学校です。1937年に陸軍士官学校とその関連施設である練兵場をつくり、東京・市ヶ谷（今の防衛省のあるところ）から座間に移転しました。この時の強制的な農地買収で３人の自殺者が出ています。1945年、進駐した米軍によって接収され、今日に至っています。

キャンプ座間にアメリカ本土から司令部が来ると新聞報道されたのは2004年３月だったのですが、その時は第９戦域コマンド司令部という兵站司令部が置かれていました。

ちなみに、兵站というのは、戦闘部隊が戦うために必要な兵器･燃料･食料などの補給、兵器や車両の整備・修理、また兵士の医療など戦闘部隊が戦うための後方部隊のことです。戦争は兵站がないと続けられません。後方支援というのは、兵站と同じ意味です。

新聞報道があってすぐに、キャンプ座間のある相模原市も座間市も「移駐反対」を決議し、両市とも市長を先頭に、署名運動、横断幕の設置、市民集会の開催など、市ぐるみの反対運動を展開しました。当時の小川相模原市長が「戦車に轢かれても反対する」と言えば、星野座間市長は「ミサイルを撃ち込まれても反対する」と言い切りました。そして座間市は国と交わした覚書がありました。1971年にキャンプ座間に自衛隊の共同使用を受け入れる時に国と交わした「国は基地縮小に最大限の努力をする」とした覚書です。それを根拠に、「基地縮小の道筋を示せ」と迫りました。市民団体も基地を人間の鎖で囲むなど、反対運動を展開しました。伊東さんが後で話しますが、私たちが座り込みを始めるのは2005年10月の中間報告後です。キャンプ座間を抱えた座間市、相模原市、そしてその周辺に暮らす人たちは2004年以降、台風が上陸したような日々を送っています。

相模原市は返還面積が大きかったせいか、何となく静かになっていきました。座間市は再編に反対する自治体として最後まで残っていましたが、2008年７月に容認に転じてしまい、現在の遠藤市長は米軍にとても友好的です。

この容認に転じる時の「反対協議会」の臨

時総会は、民主的な手法をかなぐり捨てたものでした。国の強引な手法に抵抗し、４年間がんばってきた星野市長でしたが、最後は国の常套手段と同じ強行採決という手法でした。私はこの時傍聴していましたが、戦争に近づく時は、民主主義が壊される時でもあることを実感しました。

キャンプ座間における米軍再編の内容は、①2008 米会計年度（2008 年９月）までに米陸軍第１軍団司令部を改編してワシントン州フォート・ルイスから移転。（フォート・ルイスというのはイチローがいるマリナーズがあるシアトルの郊外です。）これは、大きく前倒しされて、2007 年 12 月 19 日、第１軍団前方司令部の発足が強行されました。②2012 年度までに陸上自衛隊中央即応集団司令部を朝霞から移転する。③チャペル・ヒル住宅地区のうち、1.1ha の土地を返還する。④相模補給廠に関しては、「戦闘指揮訓練センター」を建設する。これは昨年４月から建設が始まり、今年９月に完成予定です。相模補給廠の２ha の元県道と、西側の野積場（52ha）のうち、15ha を返還、35ha を地元との共同使用（訓練・緊急時を除く）とする。（返還の土地については、市に返されるわけではありません。国有地になっていますので、国に返されます。それを自治体は買わなければなりませんが、相模原市は国に 300～400 億円を支払わなければならず、支払えるのかという現実的な問題があります。）

一度ではなかなか掴み切れないと思いますが、キャンプ座間と米軍再編に関する大雑把な説明をしました。

どうして私たちがバス停で座り込みを始めることになったかを伊東さんが話します。そしてその後、もう少し詳しく、キャンプ座間の米軍再編のことを話したいと思います。

２.基地問題とのかかわり

私が相模原市の住人になったのは、今から 22 年前のことです。連れ合いの転勤で、富山、舞鶴を経て東京勤務になったので、実家のある相模大野に移り住みました。

住んでみて一番に感じたことは、軍用機の爆音でした。テレビの音は聞こえない、電話をしていても「ちょっと待っていて」と相手に待っていてもらわなければ会話も出来ない。でも、それがどこから飛んでくる飛行機なのかまるで興味はなく、そのうちうるさいとは思っていても、慣れてしまっていました。

相模原に来る前は東舞鶴に住んでいました。京都の北部日本海側の人口３万ぐらいの町です。小さな町ですが、岸壁の母で有名な引揚げ船の港のある町です。海上自衛隊の町です。隣近所の方はほとんどと言っていいくらい、自衛隊の方とその家族でした。道の名前も「三笠通り」「朝日通り」「敷島通り」という軍艦の名前です。港は漁港ではなく、鉛色の艦船が並び、まるで軍港です。はじめはぎょっとしたものの、そのうち慣れてしまい、なんとも思わなくなってしまっていた自分を思い起こします。その頃は子育てに追われ、毎週教会には行っていたものの、社会の問題には少しは関心があっても、目に入りません

でした。

そんな私が社会の問題に関心を持つようになったのは、相模原に引っ越して翠ヶ丘教会に行くようになってからです。むりやり地区の婦人代表者会に行かされました。そして教区の婦人委員会に、その後教会の役員に選ばれて、次は教区総会議員にという風に自分の教会以外の場に出て行くことが多くなりました。

いろいろな問題意識を持つ方々との出会いの中で、当時高座渋谷教会の牧師だった菊池礼子さん（今は久保礼子さん）との出会いがありました。礼子さんとは一緒に勉強会をしたり、インドシナ難民の子供の勉強をみるボランティアをしたりと、社会で起こっているさまざまな事を学ばせていただきましたが、2001年の夏､沖縄に連れて行っていただいたのが基地問題との出会いでした。米軍基地に占領されている沖縄の地に立った時、私は第2の基地県である神奈川、それも厚木基地の戦闘機訓練の騒音の中に住んでいる自分に今更ながら気づかされました。

その後、9.11のテロが起こりました。それはイラク戦争にまで発展してしまったのです。そしてベトナム戦争に続いて、イラク戦争にも、沖縄の基地が使われている。沖縄の人たちは今までは自分たちが戦争の被害者であったのに、今は加害の立場に立たされてしまっているのです。そのことに心を痛めているのです。そして、辺野古にまた米軍基地が新たに作られるというのです。その後何度か辺野古の座り込みに沖縄まで出かけて行きました。そして､そこに座っている方に言われました。「わざわざここまで来なくても、自分の足元ですることがあるんじゃないですか？」。

その後2005年の10月の報道があったわけです。座間に米軍第１軍団司令部が移設されてくるというのです。自分の住んでいる町から戦争に行くことになるのです。今度は加害の立場になってしまう、沖縄と同じだ、これは沖縄だけの問題ではなく、自分の問題として自分の事として考えなければいけない。何かが出来るはずだ。行動しなければいけないと思いました。そしてその時、身近にいた湘北地区の集められていたとしか思えない４人（高座渋谷教会の菊池礼子さん、斉藤さん、原さん、翠ヶ丘教会の伊東）が「戦争はいやだ、基地はいらないのだ」という私たちの意思を表すにはどうしたらよいか考えました。そして、それはキャンプ座間の前での座り込みではないかという事になったのです。

座り込みといっても、実際何も分かりません。とにかくキャンプ座間に行くことにしました。そこにいた警官に尋ねました。どうしたら逮捕されないですむか、警官いわく「正式のデモなら、申請に１回2,000円の費用がかかる」「常に歩いていなければならない」等々、やらせないようにというのがありありでした。その時目についたのがバス停のベンチでした｡「あのベンチでバスを待っているというのならいいでしょう？」｢あれはバス会社のものだから、私たちの関知するものではありません」という事で、キャンプ座間前バス停座り込みが始まりました。

冬に向かい寒いので、「基地はいらない」とアップリケをしたひざ掛けをかけました。

集会などで、地元の方々に声をかけると、すぐに４、５人の方が参加してくださり、一緒に行動を共にしてくださったのです。そして座り込みの２時間はただ座っているだけではなく、あらゆる社会の出来事の情報交換の場にもなっています。今では道の両側の土手に色とりどりの横断幕を掲げ、10 人前後の人たちが毎回集まってきます。

この行動も 5 年目を迎えました。2006 年の 4 月からは、毎月１回のデモも始まりました。小田急線の相武台前駅から座間駅まで、1 時間半の行進です。30 人ぐらいの小さなデモですが、東京方面や横浜方面からも駆けつけてきてくださいます。替え歌や、シュプレヒコールをしながら、キャンプ座間で申し入れ書を渡し、座間の市街地を歩きながら、平和を訴えています。「平和とは命の危険におびえながら生活しないですむこと」というイラクの方の言葉、そして、「私たちにとって基地の問題は命の問題なのです」とおっしゃっていた沖縄の方々の叫びを、私たちも自分の問題として受け止め、これからも平和への行進を続けていきたいと思っています。（伊東）

３.第１軍団とは何？

私たちの暮らしている町から戦争の指令が出され、その指令で誰かが傷つき死ぬこと、日本も参戦する道筋に耐えがたい気持ちを抱き、基地の前で「基地はいらない」の意思表示を始めました。いたたまれない気持ちをもとに座り込みを始めたのであって、基地問題や軍事問題に強いために座り込みを始めたわけではないため、軍事的なことは言葉をはじめ、分からないことだらけというのが本当のところなのですが、知ったことを少しお伝えしたいと思います。

①米軍再編というのは、米軍の配置を再検討し、世界戦略の転換を進めようとする考えで、ブッシュ政権が 2002 年頃から打ち出した政策です。海外駐留で生じる財政支出を極力抑え、同盟国の物的・人的な協力で「世界一の軍事力」を維持することを狙いとしています。

世界的には削減になっていますが、日本での削減はほとんどありません。日本では普天間基地の代替施設を辺野古に建設する、海兵隊司令部 8,000 人のグアムへの移転、横須賀への原子力空母の配備、厚木基地に配属されている艦載機 57 機を岩国に移す、などです。

キャンプ座間の米軍再編の内容は、先程も言いましたが、2008 年９月までにワシントン州フォート・ルイスにある陸軍第１軍団司令部を移駐させ、2012 年度までに陸上自衛隊の中央即応集団司令部を配備するというものです。

②さて、第１軍団とはどんな軍団なのでしょう？ 米陸軍には、太平洋地域担当の第 1 軍団、ヨーロッパ駐留の第 5 軍団、米本土担当の第 3 軍団、そして機動的に運用される第 18 空輸軍団と、４つある軍団の太平洋地域担当の軍団が第１軍団です。日本占領に従事し、朝鮮戦争、ベトナム戦争、そしてイラク戦争でも常に戦場の最前線に立ってきました。守備範囲はアメリカ本土の西海岸から東アジア、

中近東、アフリカの東海岸までという広範囲で、安保条約の極東条項をはるかに超える範囲です。現在もイラクに配備されているアメリカの誇る最大の司令部です。

このような戦争に直結した司令部が来ることに危機感は大きく、自治体も市民も強く反対したのです。

ちょっと極東条項の説明をします。極東条項とは、米軍の駐留目的を極東の平和維持に限定する条項のことです。日米安全保障条約第６条（極東条項）においては、極東の範囲を「大体においてフィリピン以北、日本及びその周辺地域」と定義されています。

第１軍団の守備範囲は大きくこの範囲を超えるもののため、当初、外務省も難色を示し、米軍再編の協議は進まずにいました。それを進めたのが 2004 年９月の守屋と小泉の密会で、「基地の負担軽減」を前面に出して米軍再編を推し進めました。負担軽減というのは日本のみが使っている言葉です。アメリカは負担軽減とは言っていません。

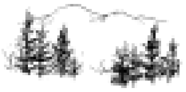
第１軍団の司令部が座間に置かれるというのは、イラク戦争や、アメリカの行う戦争の指令を私たちの町から出すことです。私たちは戦争の指令が私たちの町から出されることにいたたまれずに反対してきました。

新司令部は 2008 年９月までに移駐となっていましたが、大きく前倒しされて、2007 年 12 月 19 日、第１軍団前方司令部として 30 人で発足しました。300 人とされていたのは 30 人に、守備範囲を「極東に限る」とした前方司令部として縮小された形での発足でした。

この発足式は、招待状を受けた座間市長をはじめ周辺７市と県の首長は全員欠席、市民の抗議の声の中、屋外での予定を屋内に変えて行われました。式後、ジャコビー司令官は「歓迎していない人がいることは分かっている」と言わざるを得ませんでした。

この年の７月の参院選で、自民が大敗したのを覚えていると思うのですが、自民大敗後、キャンプ座間の米軍再編は突如進みました。２週間後に先遣隊である「移行チーム」発足を告げてきました。自民党が政権を維持しているうちに移駐しておかなければ、移駐できなくなったら大変だ・・・という性急さでした。その頃はまだ座間市は反対姿勢を崩していませんでしたし、縮小してでも「なにしろ移駐を！」と急いだのではないかと思います。

前方司令部は発足されてしまいましたが、縮小になったのは、反対運動があったからだと思います。現在司令部要員は 90 人になっています。



４.キャンプ座間への第１軍団司令部移駐でどう変わろうとしている？

発足で町の雰囲気は変わりました。基地に出入りするカーキ色の軍用車がとても増えました。町を走るＹナンバーの車も、そして家族など米軍関係者と思われる人も、確実に増えていることは、町を歩いて感じることです。幌付きトラックの荷台に迷彩色の軍服にヘルメットの兵士が並んで乗っているなんて光景は、戦争映画でしか見たことがなかったので、

そんなトラックが２台３台と続けて入っていくのを目の前にした時は､衝撃を受けました。でも今は、基地前にいると、日常的な風景になってしまいました。さらに軍事色の濃い町になっています。

基地も変化しています。新司令部発足後２カ月たった 2008 年２月には完全武装の兵士 20 人ほどが基地のフェンス越しに銃を市民側に向けて訓練するということがありました。私の友人はその現場を車で通り､｢銃口を突きつけられる恐怖を実感し、非常に怖かった」と言っています。目撃した市民はもちろんのこと、多大な恐怖と不安を全市民に与えました。その年の８月には、キャンプ座間所属の在日米陸軍部隊 20 人が相模総合補給廠から「対テロ戦争」のためにクウェートへ出動しました。これは安保条約の極東条項を超える出動です。私たちはこの出動は極東条項を超える出動で、安保条約に違反していると大きく問題にしましたが、座間市も相模原市も県も外務省も問題にしようとしません。このようにして既成事実は積み重ねられていきます。

このクウェート出動の１カ月前に座間市は容認に転じています。それを待っていたかのような出動でした。

新司令部が来て１年を経ずして、私たちは「この町から戦争に行くな」と言わなければなければならなくなってしまいました。

５.自衛隊との連携は､戦争への危険な道筋!!

①2012 年に配備が予定されている陸自･中央即応集団司令部のことも触れておきたいと思います。

中央即応集団司令部は、現在、朝霞にあります。2007 年３月に設立されましたが、自衛隊の海外派兵専門部隊でテロ対応を目的とし、朝霞駐屯所での編成式には、顔や名前を明かさない特殊部隊の隊員が覆面姿で参加しました。自衛隊の海兵隊・グリーンベレーと言われています。自衛隊の原則は専守防衛、要するに「攻められたときの守り」ですが、その枠を超えるのが中央即応集団です。キャンプ座間にこの司令部が配備されることは、アメリカが世界各地で起こす先制攻撃戦争、つまり侵略戦争に自衛隊が参加する「戦争態勢作り」だと思います。

アメリカの侵略戦争がキャンプ座間において日米で立てられ、自衛隊も一緒に出かけていくことになります。

②昨年 2009 年 4 月から相模補給廠で「戦闘指揮訓練センター」の建設が始まっています。今年 9 月に完成予定です。

補給廠という名前で、「戦車闘争」を思い浮かべる人もいるのではないでしょうか？ベトナム戦争のときは､ここで戦車を修理し､再び横浜のノースドックからベトナムに送られていました。1972 年８月～11 月、戦車が搬出されるのを補給廠の正門前の道路に市民が座り込んで100日間にわたって阻止しました。約１万人の市民が参加したと言われています。

相模補給廠はいわば倉庫で、キャンプ座間の関連施設です。戦闘指揮訓練センターの建設によって、相模補給廠は今、戦争の訓練施設に変わろうとしています。

戦地に赴く際は、必ず実戦のための訓練を

して出かけます。ベトナム戦争の時には、沖縄の基地で何カ月か戦争で人を殺せるようになるための最終訓練をしてベトナムに行っていました。最終的な実戦訓練を受けて、戦場に行きます。

先ほど 2008 年８月に極東条項を超えてクウェートに出動したことを話しましたが、このことを報道している星条旗新聞には、日本で利用できる訓練施設が不足しているため、キャンプ富士訓練場やバージニア州にある陸軍施設フォート・ユースティスで訓練を積んだ、と書かれています。

相模補給廠にできる「戦闘指揮訓練センター」とは、この「訓練施設」の代替えになるもので、コンピューターシュミレーションで戦地を作り出し、戦争現地の訓練をします。そうすれば、わざわざ遠くへ野外訓練に行かなくても、私たちの住んでいる町で戦争に行くのに必要な訓練ができて、戦場に行けます。

この「訓練センター（バトル・コマンド・トレーニング・センターといって、BCTC と略します）」は、米軍が使うだけではなく、2012 年に配備予定の自衛隊・中央即応司令部が米軍と一緒に訓練をすることになっています。米軍再編の大きな目的は、同盟国に肩代わりさせることですから、この訓練センターの意味は大きいです。

ついでなので触れたいと思います。昨年 12 月４日、相模補給廠で無通告の焼夷弾爆破処理があり、周囲をドカーンとガラスが震える爆風と音で何事が起きたのかと驚かせました。焼夷弾はこの建設作業現場で見つかったものです。約 80 発、第２次世界大戦当時の米軍のものだということです。なぜこの場所に埋められていたのか、他にもあるのかないのか、あるとしたらどこに埋められているのかなどは一切分かっていません。基地に市民感覚がないことは常々感じさせられますが、どこに何が埋められているのかは、この焼夷弾だけではなく全然分からないのです。

③海賊対策を口実としたソマリア派兵を覚えているでしょうか？ 昨年３月に護衛艦が呉からアデン湾へ出港、５月に厚木基地からＰ３Ｃ哨戒機 2 機がジブチに派遣されていますが、警護要員として陸上自衛隊の中央即応連隊 50 人も一緒に派遣されています。この中央即応連隊は中央即応集団に属し、中核となる地上戦闘部隊です。このようなかたちで、あまり話題にならないようにして既成事実作りは着々と行われています。また、つい昨日の６日、地震のあったハイチに復興支援で、中央即応連隊約 150 人が派遣されたのをテレビでもニュースで映像を流していましたね。中央即応集団の名前をメディアに出してくることに、民主党の防衛姿勢に私は不安を感じたのですが、とにかく、海外派兵の実績を作っています。

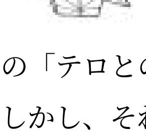
④さらにもう一つ。昨年 10 月末、国は座間市に対して、キャンプ座間返還予定地 1.1 ha に加え、4.3ha の追加返還を提示してきました。しかし、そのうち 2.3ha に中央集団司令部の家族宿舎 250～300 戸を建設するというのです。このようなのを返還というのでしょうか？ これでは、座間の基地化です。「中央集団司令部来るな」の声を大きくしていかなければなりません。

６.憲法９条のなし崩しがすすんでいる！

「日本の防衛」のために駐留しているはずの米軍が、日本の基地から戦争に出かけているのが基地の実際です。これまでも、沖縄の在日米軍や横須賀の第７艦隊が、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争など、米軍主体の戦争に出て行っています。それらの実績の上に、米陸軍司令部のキャンプ座間移駐があります。「安保条約に基づく義務だ」と説明され提供されている米軍基地が、実は目的外使用され続け、この目的外使用をさらにおおっぴらに進めよう、というのが第１軍団座間移駐です。そして、「専守防衛」の自衛隊が大きく枠を超えて戦争に出ようとしています。

米軍再編は、海の拠点の横須賀に加え、座間を陸の拠点にし、神奈川の地はアメリカの戦争の出撃地にします。

イラク戦争で一番初めにトマホークを撃ち込んだのは、横須賀から出て行った巡洋艦カウペンスでした。私たちの町では、横須賀に追いつけというのでしょうか、米陸軍は極東条項を超えての出動実績を作り、自衛隊も戦闘部隊の海外派兵の実績を作り、基地内では一緒に戦闘訓練を積んでいく施設が建設中です。この町では９条がありながら、自衛隊が米軍と一緒になって海外の戦場に出かけて行くシナリオが進んでいます。



７.世界は変わり始めている

2001 年 9.11 以降、ブッシュの「テロとの戦い」が大手をふるいました。しかし、それから８年、アメリカも日本も、ともに政権交代を果たしました。ブッシュはアフガン戦争、イラク戦争に突き進みましたが、戦争の出口は見えず、軍事力を背景とした新自由主義はリーマンショックで破綻を示しました。そして、アメリカは国際協調外交を訴えるオバマを選びました。

日本でも、このブッシュの時期は小泉旋風の中、アメリカのポチと言われるアメリカ追従で、１億総中流と思われていた社会にワーキングプアがあっという間に広がり、格差社会となって、市民は貧しくなり、小泉が主導したアメリカ追従新自由主義の実体があらわになりました。そして、「生活が第一」と訴えて民主党が政権をとりました。

世界はもうアメリカの軍事力をちらつかせての行動に飽きてしまいました。多国間協調で平和を作っていく方向に期待しています。オバマ大統領の「核なき世界」演説にノーベル平和賞が授与されたのは、その期待の表れだと思います。しかし、アメリカの軍事依存の根深さは、ノーベル平和賞をもらいながらアフガンへの増派を進めるという股裂き状態によく示されていると思います。

昨年 12 月９日の東京新聞１面トップに「米第１軍団　キャンプ座間移転中止」と大きく出ました。フォート・ルイスの第１軍団司令部は残り、座間は「前方司令部のみで終わる」と報道、「日本の防衛」に特化される見通しとしています。報道がちょうど水曜だったため、私たちは新聞を手に、毎週基地前に立ち続けた甲斐があったと喜び合いました。しかし、米軍再編の司令部移駐がすべて中止になったのではないことをきちんと把握しておきたいと思います。当初予定されていたフォート・

ルイスの司令部全てがキャンプ座間に移り、陸海空海兵隊４軍を統合する司令部をキャンプ座間に置くという計画はなくなり、要員も300 人も来ることはなく、今いる 90 人の前方司令部で終わるのかもしれません。しかし、この間の基地強化は見過ごしにできませんし、米軍再編の本質は、米軍の負担を減らしながら、同盟国の戦争協力を増やし、肩代わりさせることですので、この町から戦争に出かけ、自衛隊も戦場に連れ出す計画がストップしたわけではありません。憲法９条がありながら、自衛隊が海外の戦場に出かけて行く道筋も依然弱まったわけではありません。

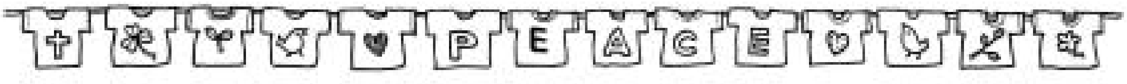
前方司令部もいりません、帰ってもらいたいと思います。中央即応集団は専守防衛の自衛隊法に違反しています。解体されるべきです。基地はいりません。

この国で９条が守られ、生かしていくことができるかどうか、それは、やはり私たち一人ひとりだと思います。平和と民主主義は与えられるものではなく、不断の努力がやはり必要なのだと思います。私たちは大切な一人ひとりです、私たち市民の声が今一番必要だと思います。私たちが主人公です。

私たちの暮らしている町から戦争の指令が出され、その指令で誰かが傷つき死ぬこと、日本も参戦する道筋に耐えがたい気持ちを抱き、私たちは基地の前で「基地はいらない」の意思表示を始めました。

私たちは毎週基地の前に立ち、戦争への道を行く日本が、私たちの町で進んでいるのを実感しています。でも、私たちが何もできないとも思っていません。第１軍団司令部は第１軍団前方司令部と規模を小さくせざるを得なかったし、４軍統合の司令部全面移転はなくなった気配が見えます。辺野古の新基地建設が撤回に向けて動いていますが、現地での毎日の座り込み、抗議行動があってこそ、今の状況を可能にしました。私たちが状況を作り出すのだと思います。

平和を実現しましょう。



社会委員会からのお知らせ

★2009 年度社会委員会学習会へのご参加、寿「越冬」支援、募金へのご協力に心から感謝申し上げます。

★新委員を募集しています。原則として、偶数月の第１主日に委員会を開催しています。どなたでも歓迎いたします。

★社会委員会へのご意見・ご要望、社会委員会学習会で取り上げてほしいテーマがありましたら、お知らせ下さい。

★次年度も社会委員会学習会へのご参加、募金へのご協力をお願いします。